

### 前期が終わりました。

文責 学校長



～10月1日(火)からは後期が始まります。～

#### 1 前期終業式を行いました。

本日(27日)で前期が終了しました。前期の期末考査も終わり、前期の成績が後ほどご家庭に届くこととなります。前期を振り返って、どうでしたか。30日(月)は休業日となります。10月1日(火)からは後期開始となります。後期も笑顔でスタートしましょう。

#### 2 野球部が『スポgomi甲子園』全国大会に参加してきました。

9月23日(祝)に東京都墨田区の「すみだリバーサイドホール」(東京スカイツリーのそば)周辺を会場に開催された「海と日本プロジェクト スポGOMI 甲子園」全国大会に佐賀県代表として本校野球部の3名(力石翔飛君、久我健人君、畑中道真君)が出場しました。台風の影響で飛行機が欠航となり、急遽新幹線に乗り換えての出発となり、到着も遅くなり会場の下見もできず、ぶっつけ本番の大会参加となったため、優勝することはかないませんでした。大会後は、スカイツリー・東京ドームも周り、一泊二日の東京旅を満喫して帰ってきました。



#### 3 今日の一言・・・本田宗一郎と三浦知良(静岡県出身)の言葉です。

○身のまわりいくらでも転がっている幸福から自分のものを選び出し、それを最高のものに高めることだね。時間だけは神様が平等に与えて下さった。これをいかに有効に使うかはその人の才覚であって、うまく利用した人がこの世の中の成功者なんだ。  
○少しでも興味を持った事やってみたいと思った事は結果はともあれ手をつけてみよう。幸福の芽は、そこから芽生え始める。



【解説】 一代でHONDAを創業した本田宗一郎氏の人生哲学が窺える言葉です。彼は、人の喜ぶ商品づくり、すなわち「モノづくり、車づくり」という仕事を、「心底愛し、信じて身をゆだね、そして楽しんでいた」人です。次の時代を担う若者に向けて「どうか、この難しい21世紀、皆さんが、その困難さえも楽しみながら、自らを切り開いていかれることを期待してやまない。」というメッセージを残しています。

【本田宗一郎について】 HONDAの創業者。1922年高等小学校卒業。自動車修理工場に勤めて修理技術を修得。1928年浜松市で自動車部品製造会社設立。1948年本田技研工業を創立。自転車の補助エンジンから始めてオートバイ生産に着手、1963年には四輪車製造に進出。1959年よりオートバイの国際レース、1964年よりF1レースに参加、「ホンダ」の名を世界的にした。「会社は一族のものではない」として、1973年社長引退。

○いつも必ず自分に勝てる人間なんて、そうそういるものではない。大切なのは、自分に負けたとき、「もっと強くならなければ」と願うことだ。  
○常に何かに挑戦していれば輝きは失われない。挑戦してその結果が成功だとか、失敗だとかではない。挑戦したときがもう成功といえるのではないだろうか。



【解説】 52歳の現在でも現役のプロサッカー選手として輝き続けている三浦知良選手の日々の鍛錬と挑戦し続ける、その真摯な姿勢が窺える言葉です。15歳で単身ブラジルにサッカー留学し、サントスFCでプロとしてスタートしました。その後、日本に戻り、1992年のJリーグカップではヴェルディを優勝に導いた上、大会 MVP と年間最優秀選手賞(フットボーラー・オブ・ザ・イヤー)を受賞しました。Jリーグ開幕後は、ラモス瑠偉、北澤豪、武田修宏ら、多くのチームメイトに恵まれ、川崎ヴェルディ時代の黄金期を支えた選手の一人として記憶に残る選手です。

【三浦知良について】 静岡県静岡市葵区出身のプロサッカー選手。Jリーグ・横浜FC所属。ポジションは左ウイング(ブラジル時代)、センターフォワード(日本帰国後)。ニックネームは「カズ」、または「キング・カズ」である。日本代表としてもFIFAワールドカップ初出場に貢献した。ワールドカップ地区予選では総得点を27点記録するも、ワールドカップ本大会へは未出場。Jリーグ年間最優秀選手賞1回、得点王1回、ベストイレブンを2回受賞、1993年にアジア年間最優秀選手賞を受賞。釜本邦茂と共に、国際Aマッチ1試合で6得点の日本代表1試合最多得点記録、通算得点記録(55得点)を持つ。2012年にはフットサル日本代表としてフットサルワールドカップに出場。

#### 4 今日の一冊・・・今回の一冊は、今村夏子の『むらさきのスカートの女』です。

近所に住む「むらさきのスカートの女」と呼ばれる女性のこと  
が、気になって仕方のない〈わたし〉は、彼女と「ともだち」になる  
ために、自分と同じ職場で働きだすように誘導し……。  
『こちらあみ子』『あひる』『星の子』『父と私の桜尾通り商店街』  
と、唯一無二の視点で描かれる世界観によって、作品を発表  
することに熱狂的な読者が増え続けている著者の最新作。



【解説】第161回芥川賞受賞作品ですが、158ページと短く2時間もあれば読了してしましますので、トライしてみてください。内容は、「むらさきのスカートの女」の行動や言葉を異常ともいえる執着で観察している「黄色いカーディガンの女」こと〈わたし〉の視点で物語が語られ始めます。最初の1ページから「むらさきのスカートの女」という長ったらしい呼称（人物名）が繰り返され、読者にはそのことに耐えつつ読み進める覚悟が求められます。〈わたし〉は彼女とともだちになるために〈わたし〉の職場で彼女が働き出すように誘導します。そしてまたその行動を観察し続けるという狂気と紙一重の滑稽さを孕んだ小説ですが、簡単に評するとテレビドラマの「世にも奇妙な物語」の一話を見た後のような読後感が漂う作品です。

【作者・今村夏子について】1980年広島県生まれ。2010年「あたらしい娘」で太宰治賞を受賞。「こちらあみ子」と改題、同作と新作中短編「ピクニック」を収めた『こちらあみ子』で2011年に三島由紀夫賞受賞。2017年『あひる』で河合隼雄物語賞、『星の子』で野間文芸新人賞を受賞。（参考：「BOOK 著者紹介情報」より）

#### 5 日本全県味めぐり…第23回は静岡県です。

静岡県のグルメと言えば、「うなぎ」「すっぽん料理」「桜えびのかき揚げ」「浜松餃子」を挙げたい。まず「うなぎのかば焼き」。静岡県は、国内でも有数のうなぎの産地。天竜川水系の浜名湖、大井川水系の吉田・榛原地区は、水量も豊富に確保することができ、また港で加工されていた魚介類のアラがうなぎのエサとして利用できたことで、うなぎ養殖の基盤となった。何と云ってもつやつやのタレがかかった蒲焼きをご飯にのせた「うなぎ重」が美味。次に、静岡県の西部、浜名湖を有する浜松市のもう一つの名物料理が「すっぽん料理」。すっぽんは主に養殖されているもので、全国の70パーセントを浜名湖周辺で生産している。すっぽん料理としては、鍋料理や雑炊、吸い物などが挙げられる。すっぽんは、甲羅、爪、膀胱、胆嚢以外はすべて食べられるのが特徴で、蛋白質と脂質が少ないため低カロリーだが、ビタミンAやビタミンB1を多く含み、栄養価が高いため滋養強壯の食材としてもよく用いられている。「桜えびのかき揚げ」は、生の桜えびにお好みの野菜を混ぜあわせて、衣を少なめにしてカラッと揚げたもの。サクサクとした食感と桜えびの甘さ、香ばしさを味わえる料理だ。駿河湾は桜えびの国内水揚げ量が100%であり、商標として主な漁港である由比漁港の「由比桜えび」と、駿河湾全体の「駿河湾桜えび」が登録されている。現在では主な水揚げ港の由比漁港で、毎年5月に「由比桜えびまつり」が催され、数万人の来場者がある。

「浜松餃子」は、昭和30年代初頭に、中国から戻ってきた住民が浜松駅周辺で開いた小さな屋台から始まったといわれる。その特徴は、フライパンを使って円形に並べて焼くことと、付け合わせにもやしや添えられること。具にキャベツなどの野菜をふんだんに使ったあっさり仕立てだが、豚肉のコクがしっかりと味わえるため、満足度は十分。現在、市内には300軒以上もの餃子提供店があり、各店のこだわりの味が楽しめる。（参考：「郷土料理ものがたり」）

【うなぎパイ】（春華堂）昭和36年の誕生時からずっと職人さんが、ひとつひとつ丁寧に手作りしているお菓子です。原材料は、フレッシュバターと厳選された原料にうなぎエキス、ガーリックなどの調味料をブレンドしたシンプルなもの。仕上げに、社内でもごく一部の者しか知らないと言われる秘伝のタレを塗って完成させているそうです。春華堂では、「うなぎパイ」などの銘菓の販売のほか、うなぎパイファクトリーの見学やカフェサロンでの飲食もできます。

【安倍川もち】静岡土産としてロングセラーの定番となっています。その歴史は古く、400年ほど前、徳川家康が安倍川近くの茶屋に立寄った時、店主がつきたての餅に安倍川でとれる砂金に見立てたきな粉をまぶし、「安倍川の金な粉もち」として献上したのがきっかけとされています。

#### 6 保護者の皆様へ・・・ご家庭は安らぎの場所になっていますか？

NHKの朝ドラ『なつぞら』が明日で最終回を迎えます。広瀬すず演じる「奥原なつ」を支えた家族や心温かい人々を描いた心温まる昭和の時代のドラマでした。最近子供たちが学校でご家庭やご家族の不満を訴える場面が少なからず見受けられるようになりました。ご家庭がお子様を支える温かい安らぎの場所となりますよう宜しくお願いします。

